

卷 頭 言

萬天漆黒、風を呼び雨を孕み雷霆閃くは之蛟龍昇天の圖である。

優秀民族が其の勃興期に際會するや波瀾萬疊如何なる方策を構ずるも其の勢を阻止する能はざるは歴史に顯著なる事實である。

昭和六年九月十八日夜半柳條溝に起た銃聲こそは近き將來に世界を指導すべく約束づけられた大和民族勃興の狼煙であつた。

今や長き迷夢より覺めてユーロピアンオンリーの思想に敢然と挑戦し五體の毛根から精氣迸ばしる如く所有る方面に其の眞價を發起し出した。

特に目覺しいのは土木技術の飛躍である。

内地に於ても大陸に於ても世界の技術界を瞳若たらしむ如き事業が次々と實行されて居る。

世を擧げて建設の時代である其の中樞を爲し尙先鞭となるものは土木技術である。

大陸の土木技術は我等滿洲國の技術屋が生の親であつた永久に斯業の木鐸たらねばならぬ。

お互に滿洲技術の特異性に付研鑽怠らず自肅自誠尊き使命を恥しめてはならぬ。

雑誌「建設」の内容こそは其のパロメーターと成るものではなからうか。